



子どもの感染症 いつまで休むの？

保育園・幼稚園や学校などの
集団生活の中では、
さまざまな感染症が問題になります。
「いつまで休んだらいいの？」と疑問に思う、
お母さん方も多いと思います。
今回は感染症それぞれの
登園・登校の目安などを伺いました。

はるこどもクリニック

高柳 滋治 院長

昭和59年、北海道大学医学部卒業。同年4月から北海道勤医協札幌病院に7年間勤務後、静岡てんかん・神経医療センター小児科、道南勤医協後北病院小児科医長を経て、平成21年9月、はるこどもクリニックを開院。日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門医、日本アトピー心理学会認定カウンセラー。著書に「いいところ探しののびのび子育て」あり。

現在の感染症の現状は？

環境の改善や予防接種の普及で、感染症の様子も随分様変わりしました。かつては、死亡する率も高く、恐れられていたコレラやチフスなど、かつて法定伝染病と言われた疾病は今ではほとんど姿を消しています。そのため、感染を予防するということが加えて、子どもの発達のために必要な生活になるべく保障しようと言うことに重きが置かれるようになってきています。

各感染症の登園・登校の目安は？

しかしインフルエンザは、感染力も強く、疾患としても重症なので、はしかは解熱後3日、インフルエンザは解熱後2日の観察期間を経てから登校するようにします。みずぼうそうは、発疹がかさぶたになるまで（およそ7日）、おたふくは腫れがひくまで（7〜9日）、風疹は発疹がひけるまで（およそ3日）お休みしてください。百日咳と溶連菌感染症は、抗生物質を早くから使って治療するようになっています。抗生物質を使用すると48時間以内に菌の排出

が無くなるので、全身症状が良くなっていれば隔離の必要がなくなります。手足口病やヘルパンギーナ、みずいぼは、病気としてはそう重いものではないので、感染する可能性があっても全身状態が良ければ、登園・登校は可能です。とびひは、病変部の浸出液で感染します。病変部を露出しない対処をすれば、隔離は不要です。リンゴ病は、発疹が出る1週間くらい前に軽いかぜ症状があり、その時は感染力があるのですが、典型的な発疹（顔や手や足が赤くなる）が出て診断がつく頃には、もう病原ウイルスを排出していません。従って隔離する必要はありません。プール熱（咽頭結膜熱）とはやり目（流行性角結膜炎）は、症状が消えれば登園・登校ができるようになりますが、目からはウイルスが検出されるので、プールは2週間禁止しておくことが望ましいとされています。

医師とよく相談するのが大事ですね。

以上は、あくまで一般的な目安です。実際には今かかっている医師の判断が優先します。また、各園、各学校で、園医や校医の医師とよく相談してある程度の目安を決め、その旨、親にも伝えておくと混乱が少なくなるものと思います。



はるこどもクリニック

七飯町本町6-7-42
☎0138-65-0500